

クルーズの最近の動向について

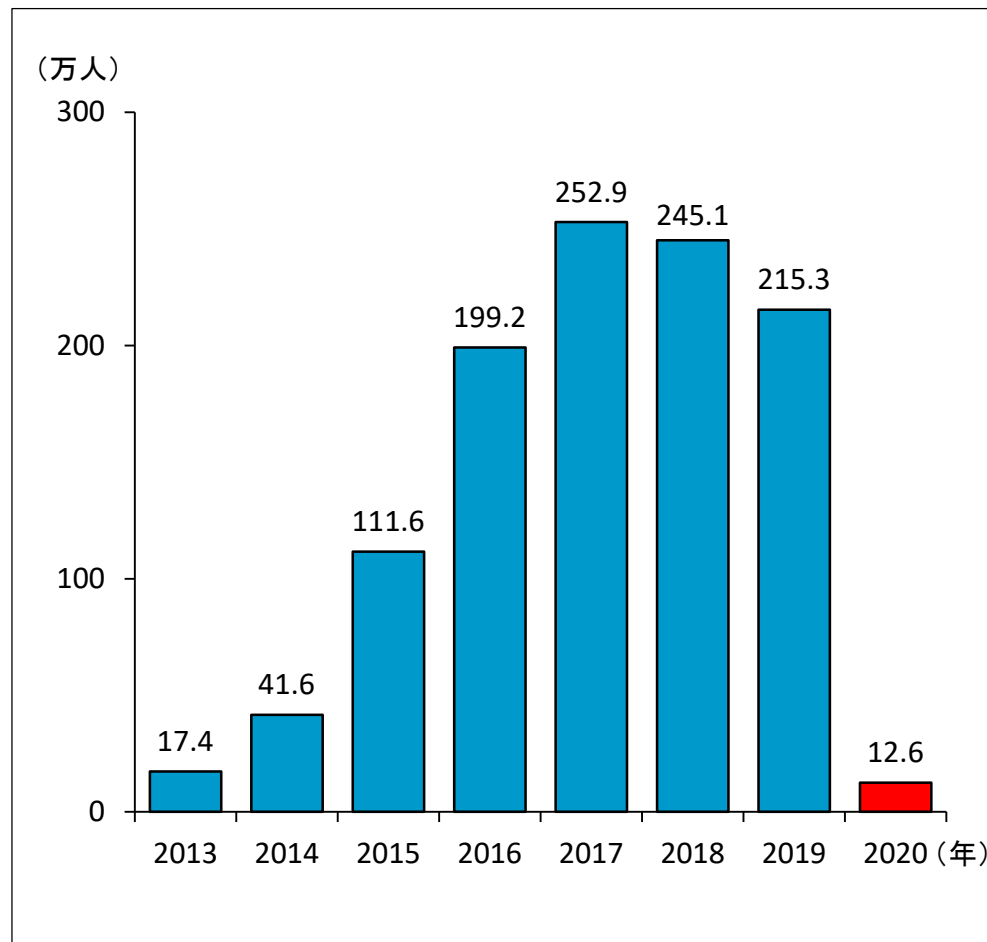
令和4年1月28日

港湾局産業港湾課クルーズ振興室

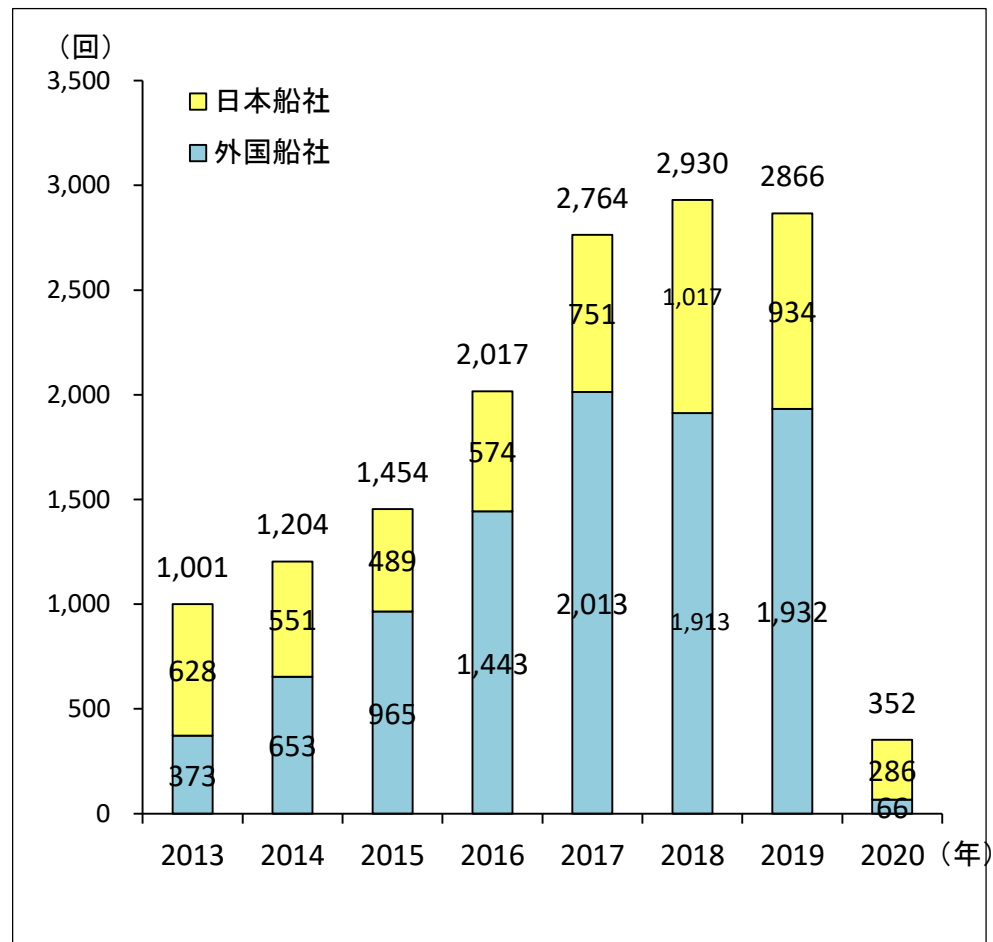
我が国のクルーズ船寄港に関する状況

○2020年の訪日クルーズ旅客数は、前年比**94.1%減**の12.6万人、我が国港湾への寄港回数は前年比**87.7%減**の352回（外国船社66回、日本船社286回）となった。

訪日クルーズ旅客数



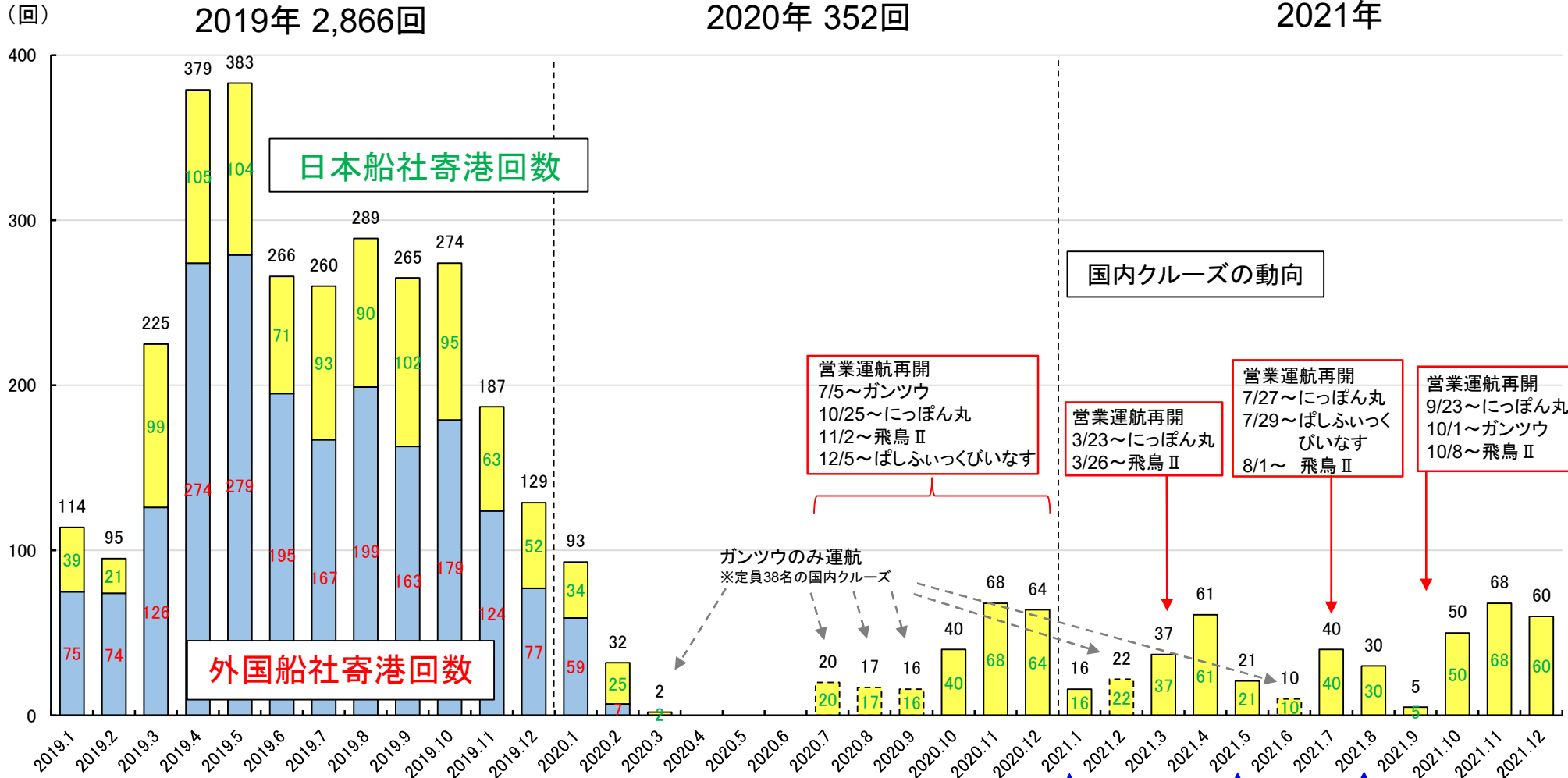
クルーズ船寄港回数



注1) 出入国在留管理庁の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。
 注2) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。

我が国の港湾へのクルーズ船の寄港状況

我が国の港湾へのクルーズ船の月別寄港回数



※港湾管理者の聞き取りを基に国土交通省港湾局作成
 ※クルーズ: レジャーを目的とした船旅で宿泊を伴うもの

2021.1～
緊急事態宣言発出に伴い、ガンツウを除いて再度運航休止

2021.5～
緊急事態宣言や運航中の飛鳥Ⅱから陽性者が確認されたことを受け、ガンツウを除いて再度運航休止

2021.8中旬～
感染拡大に伴い、全船再度運航休止

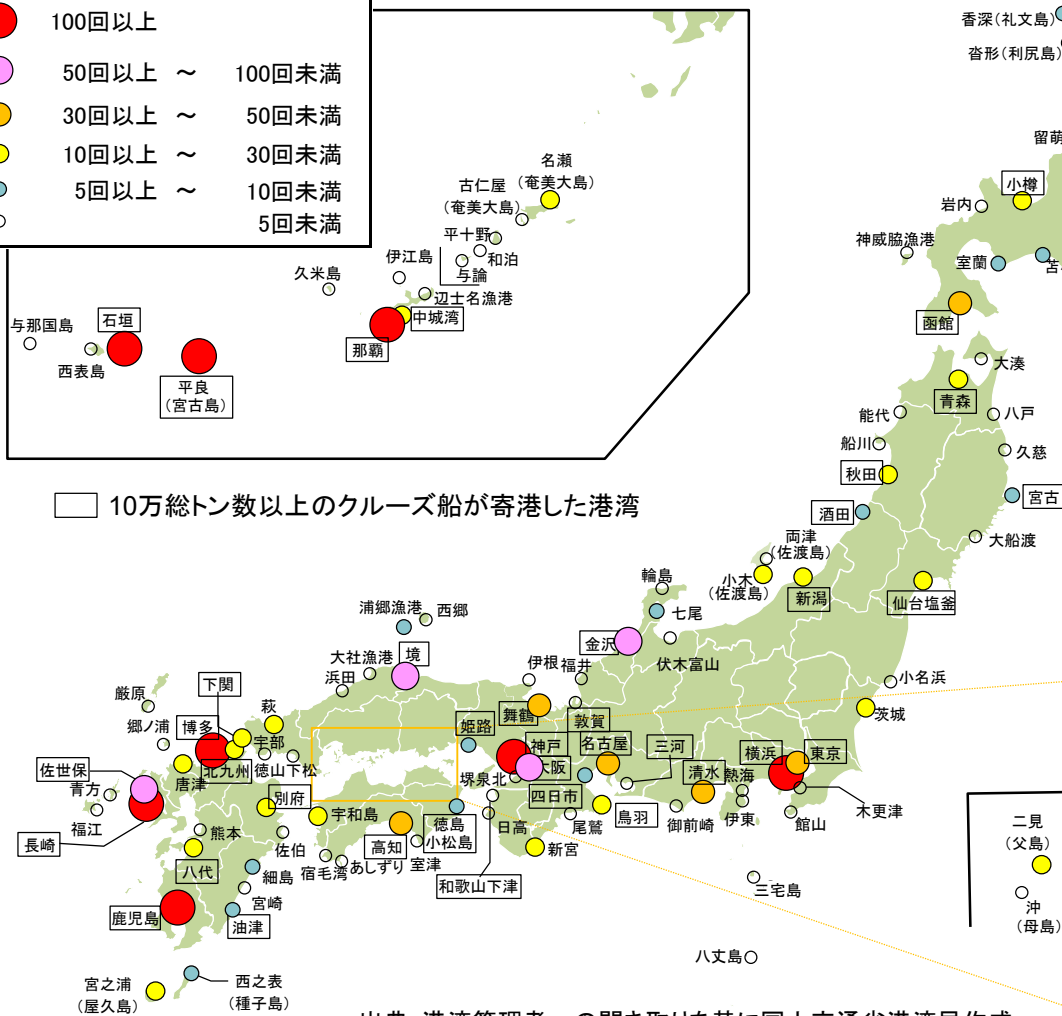
クルーズ船の寄港する港湾(2019年)

○2019年にクルーズ船が寄港した港湾の数は全国で142港。うち、大型クルーズ船(10万総トン数以上)が寄港した港湾は42港。

○那覇港が4年連続1位だった博多港を上回り初めて1位となった。

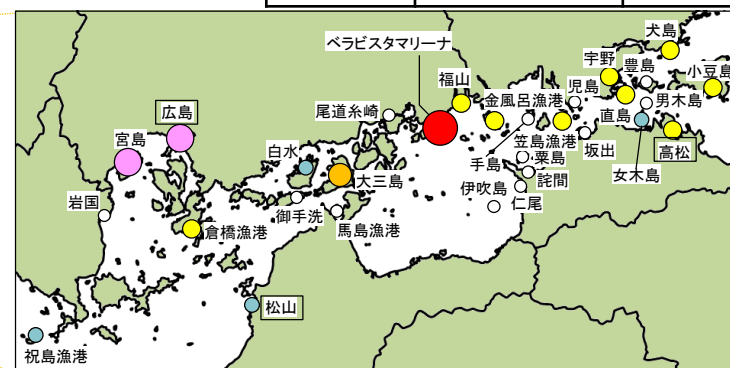
クルーズ船の寄港する港湾

凡 例	
● (Red)	100回以上
● (Pink)	50回以上 ~ 100回未満
● (Orange)	30回以上 ~ 50回未満
● (Yellow)	10回以上 ~ 30回未満
● (Light Blue)	5回以上 ~ 10回未満
○ (White)	5回未満



2019年クルーズ船の寄港回数(上位10港)

順位	港名	寄港回数
1位	那覇港	260回
2位	博多港	229回
3位	横浜港	188回
4位	長崎港	183回
5位	石垣港	148回
6位	平良港	147回
7位	神戸港	131回
8位	鹿児島港	106回
9位	ペラピスタマリーナ 【広島県】	100回
10位	佐世保港	79回



出典: 港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

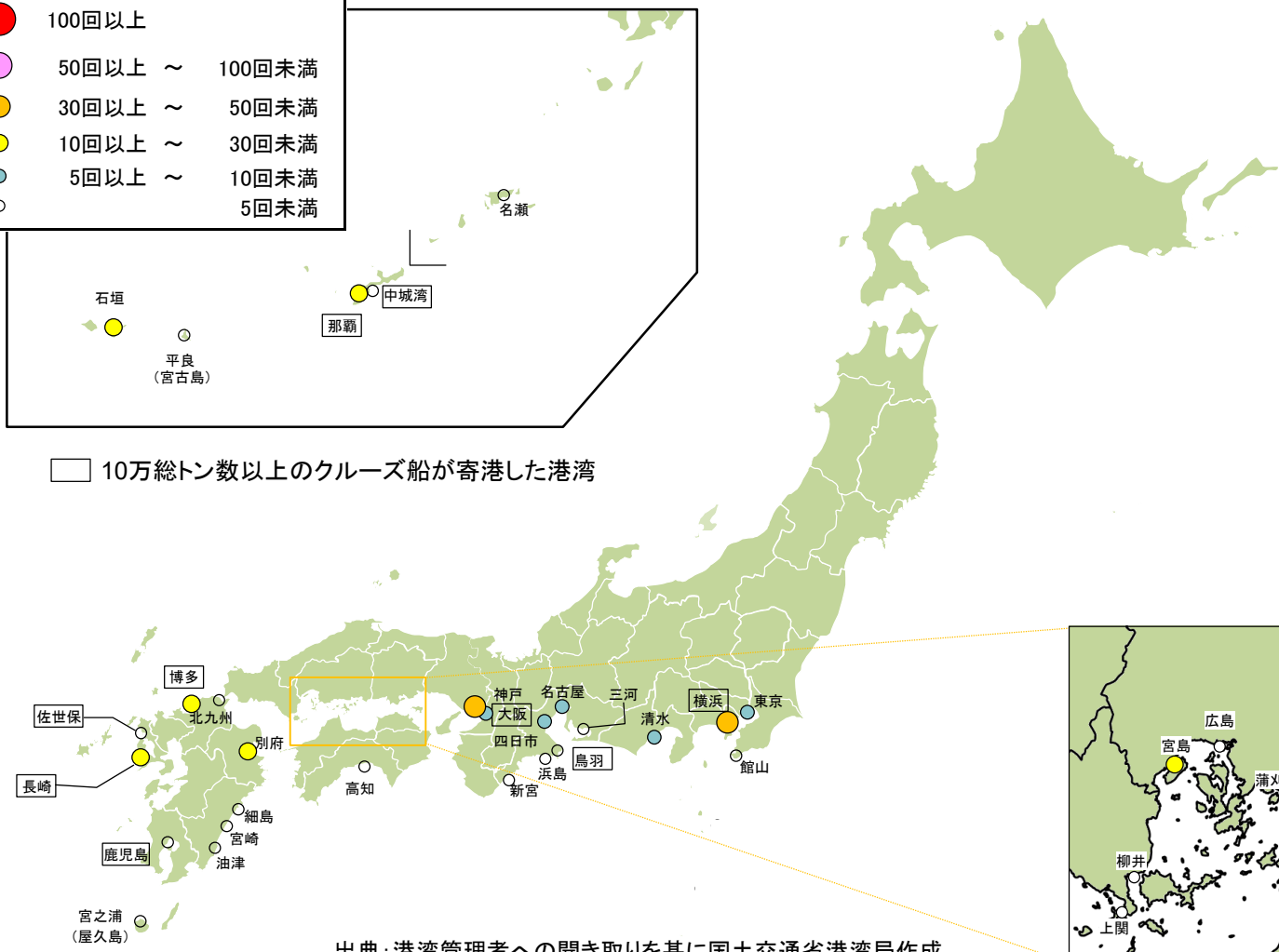
クルーズ船の寄港する港湾(2020年)

○2020年にクルーズ船が寄港した港湾の数は全国で50港。

クルーズ船の寄港する港湾 (速報値) 2020年クルーズ船の寄港回数(上位10港)

凡 例

● (Red)	100回以上
● (Pink)	50回以上 ~ 100回未満
● (Orange)	30回以上 ~ 50回未満
● (Yellow)	10回以上 ~ 30回未満
● (Light Blue)	5回以上 ~ 10回未満
○ (White)	5回未満



順位	港名	寄港回数
1位	ペラビスタマリーナ 【広島県】	53回
2位	横浜港	47回
3位	神戸港	30回
4位	宮島	19回
	那覇港	
6位	笠島漁港	16回
7位	博多港	14回
8位	大三島	13回
9位	犬島	12回
10位	石垣港	10回
	長崎港	

出典: 港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

クルーズを安心して楽しめる環境づくりへの取り組み

- 国土交通省において、感染症や危機管理の専門家等の意見を聞きながら、クルーズの安全・安心の確保に関する検討・中間を実施し、令和2年9月18日に中間とりまとめを公表。
- 上記中間とりまとめの公表に合わせて、関係業界が、国内クルーズを対象としたクルーズ船及び受入港の感染症対策に関するガイドラインを策定。
- 各ガイドライン等に基づき、寄港地における受入体制の構築、クルーズ船の寄港検討が実施されている

国土交通省におけるクルーズの安全・安心確保に係る検討・中間とりまとめ（令和2年9月18日）

日本外航客船協会ガイドライン（国内クルーズを対象） ※令和2年9月18日初版、令和3年9月22日第五版

- 乗客の事前スクリーニング
 - ・検温、質問票、本人確認 など
- 船内の予防策
 - ・マスク着用、手洗い、消毒、健康管理の徹底
 - ・船内施設の座席数減、間隔確保
 - ・換気の徹底 など
- 有症者発生時の拡大防止
 - ・船医による診療
 - ・船内隔離、イベント中止※ など
 ※一定の要件を満たした場合の緩和措置あり

日本港湾協会ガイドライン（国内クルーズを対象とした上記ガイドラインに対応） ※令和2年9月18日初版、令和4年1月11日第五版

- クルーズ船の旅客や乗組員、ターミナルビルの従業者の間の感染防止
 - ・症状のある者の入場回避、マスク着用
 - ・列や座席の間隔確保、消毒液又は手洗器配置など
- ターミナルビルの従業者の感染防止
 - ・健康状態確認 など

船内における感染防止対策 （クルーズ船事業者）

- ガイドラインに基づき、各船の対応マニュアルを作成
- 上記については、日本海事協会による第三者認証を取得（邦船3隻は認証を取得済）
- 邦船社については、衛生管理規程の作成・遵守を義務づけ（令和2年11月に海上運送法施行規則改正済）

旅客ターミナル等における感染防止対策 （港湾管理者等）

- 令和2年9月18日、「港湾管理者は、都道府県等の衛生主管部局を含む協議会等における合意を得た上で、寄港受入を事前判断」等を、港湾局から港湾管理者に要請
- 寄港地の関係機関等の情報共有体制整備のため、水際・防災対策連絡会議を設置

寄港地における受入体制の構築

クルーズ船の寄港検討

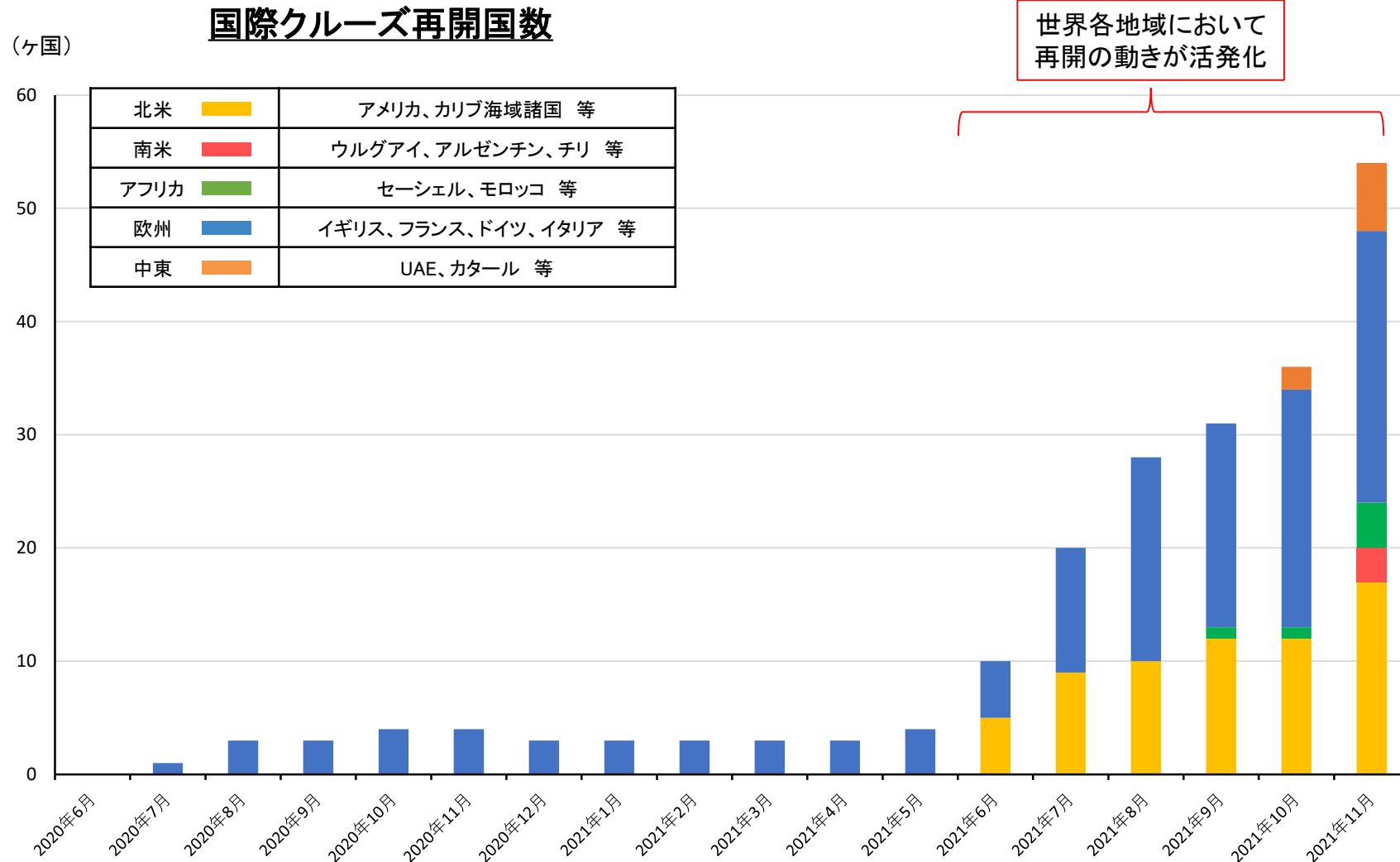
情報共有等

寄港地の関係機関等※

※衛生主管部局、港湾関係機関等

世界のクルーズ船の運航再開状況(国際クルーズ)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中でクルーズ船の運航休止を余儀なくされた。
- 国際クルーズについては、2020年7月から欧州において徐々に運航が再開され、2021年6月頃から欧州やアメリカ等で運航再開が活発化してきている。一方、アジアにおいては未再開。



※みなと総合研究財団や船社HP掲載情報等を基に港湾局作成

海外のクルーズにおける最近の動向(感染者発生状況等)

海外のクルーズにおける直近の感染者発生状況(例)

時期	地域	概要
2021年 12月	北米	<ul style="list-style-type: none"> ロイヤル・カリビアン・グループのクルーズ船「シンフォニー・オブ・ザ・シーズ」に乗船していた48人から陽性反応が検出された。船内で乗客1人が検査で陽性反応を示し、追跡調査でさらに陽性者が見つかった。48人は無症状、もしくは軽度の症状を発症していた。乗員乗客6,091人が乗船しており、乗船していた人の95%、および陽性反応が出た人の98%がワクチン接種を完了していた。 陽性者は船内で隔離され、そのうち6人は途中寄港地のセント・マーチンで下船し、そのまま自宅に搬送された。また、残りの陽性者はクルーズを終えてマイアミに帰港した後、地元医療機関などの支援を受けて自宅に戻った。(出典: CNN News 等)
2021年 12月	欧州	<ul style="list-style-type: none"> キュナード・ラインのクルーズ船「クイーン・メリー2」で、大西洋横断(7泊)の航行中(イギリス～アメリカ)に、定期検査において乗客から10人の陽性者が発生した。乗客は1,473人で、全員ワクチン2回接種及び乗船前に陰性であることを確認していた。 陽性者10人は船内で隔離され、本船は予定通りニューヨークに入港。陽性者はホテルへ直行隔離された。(出典: CNN News 等)
2022年 1月	アジア	<ul style="list-style-type: none"> ロイヤル・カリビアン・グループのクルーズ船「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」で、南シナ海をめぐる無寄港クルーズの途中、乗船者のうち9人が新型コロナ陽性者の濃厚接触者(陽性者は乗船していない)と特定され、香港への帰港を命じられた。香港政府の発表によると、濃厚接触者9人は政府の隔離施設に送られ、約2,500人の乗客と1,200人の乗員は船内に残って新型コロナの検査を受けるよう指示されている。ロイヤル・カリビアンによると、PCR検査の結果は9人とも陰性だったと伝えられている。(出典: CNN News 等)
2022年 1月	オセアニア	<ul style="list-style-type: none"> コーラル・エクスペディションのクルーズ船「コーラル・ディスカバリー」で、タスマニア周遊クルーズの航行中に、ホバートから出港した直後の定期検査において乗船者から2人の陽性者が発生し、乗客60人及び乗組員30人は濃厚接触者とみなされた。全ての乗客・乗組員は2回のワクチン接種及び乗船前の検査を実施していた。 陽性者が発生した後、同船はホバートに戻り、全ての人を地元のホテルに移した。濃厚接触者は、7日間の隔離と迅速抗原検査、検査を受けるよう命じられた。(出典: Seatrade Cruise News)

CDC(米国疾病対策予防センター)の警告レベルの更新

OCDCには、111隻のクルーズ船が登録されており、乗員乗客に感染(疑いも含む)者が出た場合は、CDCに報告することが義務付けられている。

OCDCの基準では、感染者が出た場合でも乗客総数の0.1%以下で、乗員に感染者が出ていない場合には経過観察で済まされるが、2021年末の1週間で感染の報告があったクルーズ船75隻のうち、この基準に合致したのは9隻のみだった。(2021/12/28)

OCDCは、オミクロン株が確認されて以来クルーズ船内での感染者が増加していることから、クルーズ旅行に関する警告を最高レベルに更新し、米国人に対し、ワクチン接種の有無にかかわらずクルーズ旅行を避けるよう警告を発した。(2021/12/30)

CLIA(クルーズライン国際協会)の声明

OCDCの警告レベルの更新に対し、CLIA(クルーズライン国際協会)は声明を発表し、クルーズ船内における感染者発生率は陸上よりも低く抑えられており、また、感染者が発生した場合でも、症状の多くは無症状または軽度の症状であるとして、CDCのクルーズ旅行に関する警告レベル引き上げに反論している。(2021/12/30)